

---

# 二次創作に関する考察

ロメル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

二次創作に関する考察

### 【Nコード】

N3884N

### 【作者名】

ロメル

### 【あらすじ】

オリジナル小説は本当にオリジナルなのか？純粋な一次創作は可能なのか？という疑問から二次創作について考察した小論文。ジャンルは正確には文芸学。

## (前書き)

にじファン開設記念作品。すべての『小説家になろう』ユーザーに贈る。

二次創作とは何か。この問いに答えるには、まずその定義を確認しなければならぬ。

Wikipediaの解釈に従うのであれば、二次創作は、原典のストーリー、世界観、及び登場するキャラクターやアイテム、各種の設定などのアイデアを元に、何らかの創作を行う行為と定義できるだろう。

では原典には何が該当するだろうか。

散文（小説、エッセイ、日記など）、詩、童話、神話、民話、伝承や慣習、漫画、アニメ、映画、写真、音楽、絵画、イラスト、CG、プログラム、建築物などの造形物と設計図、（歴史的な）事件とその報道、そして人物。異論もあるとは思いますが、少なくともこれだけの範囲の物が、原典となり得るだろう。

上に列挙しただけでも、原典の範囲が極めて広いことは理解して頂けると思う。

ここで考えて頂きたい。我々が現代において小説を書くとき、その小説は純粋な一次創作物、すなわち原典に拠らないものとして存在することができだろうか？

筆者はこの問いに、否と答える。たとえアマゾンの奥地に住む未開の部族であっても、神話や伝承を受け継いでいるだろう。まだ文字を書くことのできない、幼子であってもその影響を受けていないとは考えにくい。まして、日本においては、テレビに映される映像や音楽、外に出れば広告や建築物のデザインなど、原典となり得るものが氾濫している。インターネットを利用していけば、なお更である。そして、小説を書こうとする我々の脳には、たとえ無意識下であってもこれらの情報が蓄積されており、オリジナリティを阻害

する。故に、現代の日本に住む我々には、純粋な一次創作は不可能であると断言できる。

では、二次創作の場合はどうであろうか。

二次創作とは、原典に独創性や意匠性という極めて曖昧な概念を付与する行為である。その曖昧さ故に、極論すれば、現在創作されている物のすべてが、二次創作物であると言える。

我々は幸運にも、一次創作物について、そこまでの厳密性を要求されない。ある程度の独創性があれば、一次創作物と認められるのである。二次創作物についても同様である。

最後に、貴殿がオリジナル小説を書いたとき、それが本当に一次創作物であるのか、考えて欲しい。あるいは二次創作の小説を書いたとき、原典には何が含まれているのか、本当にすべての原典を把握できているのかを、是非とも考えて頂きたい。

参考…Wikipedia『二次創作物』『著作権』『著作権法』

## （後書き）

一応シリアスな文章です。考え方によってはコメディかもしれない。普通の小説にするなら、登場人物を作って会話でもさせれば良いのじゃないか。その場合、すごく説明口調になるとは思います。

今回の投稿作品は、ホラーかコメディの短編小説の予定です。2作品連続で、小説ではない（？）作品を投稿しているので、次はできるだけ普通の作品にするつもりです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3884n/>

---

二次創作に関する考察

2011年3月12日12時25分発行